

倉吉民話伝承探訪

Kurayoshi Folklore

鳥取県中央部に位置する倉吉は、古代には伯耆国の中心地であり、江戸時代には商工業で栄えました。このように多くの人が行き交う土地であったことから、多様な民話や伝承が残っています。このパンフレットは、そのような物語を後世に残していくため厳選した十編の話を載せております。話を読み、ゆかりの場所を訪ねることで倉吉をより深くお楽しみください。
《出典：「鳥取の伝説」(鷺見貞雄・片柳庸史/角川書店)、「くらし風土記」(倉吉市教育委員会)》



『 関金温泉の開湯 』

平安時代の話。高名な僧「弘法大師 空海」が旅で関金を訪れました。その際、一匹の鶴が湯気の立つ水に入っているのを見かけました。不思議に思い、近寄って確認したところ鶴が入っていた水は温泉でした。これが現在の関金温泉の起源となったといわれています。
※弘法大師 空海：唐(中国)で密教を学び、帰国後、真言宗を開いた僧。



『 小人の大工 』

その昔、関金にある大滝山地蔵院という寺が火事で燃えました。時が流れ、鎌倉時代に「佐々木四郎高綱」という武将が源頼朝の武運長久を祈って寺を再建しようとしていました。しかし、なかなか工事が進みません。そんなある日、毎夜どこからともなく小人が現れ工事を手伝ってくれるようになりました。小人たちは朝になる消えてしまい、現場には木屑が散らばっていたことから、人々は木屑が小人の大工に化けたと噂しました。それから、建物が完成すると小人は姿を見せなくなったといわれています。



『 えぐ芋伝説 』

平安時代の話。ある老婆が川で芋を洗っていたところ、一人の旅の僧が通りかかり、「その芋をくれませんか」と頼みました。しかし、老婆は「この芋はえぐ芋といって、食えん芋だ」と嘘をついて断りました。その夜のことです。老婆が芋を煮て食べようとする、その芋は舌の先がゆがむほどえぐくて食べられたものではありませんでした。老婆は腹を立てて、芋を小川に投げ捨ててしまいます。それ以来、その芋は川床から青く美しい葉を繁らすようになりますが、村人はその芋を「食わず芋」と呼び食べなくなったといわれています。



『 矢止め荒神 』

その昔、日本武尊(やまとたけるのみこと)が九州を征伐するため関金を通ったとき、武運を祈るため、伯耆(鳥取県中西部)と美作(岡山県北東部)の国境にそびえる山に向かって矢を放ちました。矢は8kmも離れた場所まで飛び、その土地を支配する荒神が受け止めました。その矢を見てみるととても立派だったので、荒神は山川を超えて日本武尊の所まで返しにきました。それ以来、矢を放った山を「矢筈ヶ山」、川の名を「矢送り川」と呼ぶようになりました。
その矢は今も「矢送神社」に納められているといわれています。



『 打吹天女 』

その昔、倉吉にある山へ天女が舞い降り、羽衣を小枝にかけ清水で水浴びをしていました。それを偶然見かけた農夫は、天女を天に返すまいと羽衣を隠してしまいました。天に戻れなくなった天女は仕方なく農夫の妻となり二人の子を産みました。しかし、何年か後、天女はついに羽衣を見つけ出しました。天女は子供たちを残すことを不憫に思いながらも、天に帰っていきましました。それ以来、二人の子供は毎晩山に登り鼓を打ち、笛を吹いて母を呼び続けました。ですが、結局母は帰ってきませんでした。いつしか人々はこの山を「打吹山」と呼ぶようになったといわれています。



『 洪水の神 』

その昔、大雨により下田中近くの竹田川が増水し村に危険が迫りました。村人は氏神様に心をこめて祈りました。それから雨は小降りになりましたが、しばらくすると、また大雨になりました。すると、突如、土手の上に光が射し大きな火の玉が飛んできて、その後ろから白い衣を着た巨人が現れました。その巨人は堤防の草を踏みつつ川を往復していました。間もなく火の玉は神社のほうに消え、巨人も見えなくなりました。それから、雨は急に小降りになり、村人は、あの巨人は氏神さまに違いないと考え、その有難さに深く感謝したといわれています。



『 長谷寺の絵馬 』

その昔、お百姓が田んぼにいくと稲穂が食い荒らされていました。周囲を調べると、地面に馬のひづめの跡がたくさん残っていました。そこで、お百姓は徹夜で田んぼを見張り犯人を見つけようとしていました。すると、一頭の馬が現れ田んぼを荒らし、長谷寺のほうへ消えていきました。長谷寺の絵馬から馬が抜け出たと考えたお百姓は寺の住職に頼んで絵馬に描かれた馬の鼻輪に手綱を描いてもらいました。それ以来、馬に田んぼを荒らされることはなくなりました。
この絵馬は今も長谷寺に保管されているといわれています。



『 花かつみ物語 』

室町時代の話。伯耆国守護「山名教之」の元に「一式詮徳」が訪れました。その際、花を摘みに出ている教之の娘「鶴姫」が賊に襲われるという事件が起きましたが、詮徳により鶴姫は助けられました。鶴姫は御礼として「花かつみ」という花を贈りました。これをきっかけに、鶴姫は詮徳に恋心を抱き、二人は京の都で結ばれました。しかし、応仁の乱が起ると詮徳は戦に出て、二人は離れ離れになってしまいます。戦乱の中、鶴姫は詮徳に会いたい一心で彼が守る阿久比(愛知県)の竹林城に向かいました。なんとか辿り着いた鶴姫ですが、疲労のため詮徳の腕の中で息絶えます。そのとき、鶴姫の手には思い出の花「花かつみ」の種が握られていたといわれています。



『 大原鍛冶 』

平安時代の話。大原の地に「伯耆安綱」という刀鍛冶が住んでいました。この安綱は現在のような反りのある日本刀を作った最も古い刀鍛冶の一人といわれています。安綱の作る刀は、多くの妖怪退治の伝説を持ち、平安時代に都を荒らした鬼「酒呑童子」を退治したといわれる刀「童子切安綱」は天下五剣に選ばれるほどの名刀でした。さらに、その息子「伯耆真守」が作った平家の宝刀「抜丸」も、「平清盛」の父「平忠盛」が大蛇に食べられそうになったとき、ひとりでに抜け出て大蛇を追い払ったという伝説を持つほどの名刀だったといわれています。



『 小山の芝居狐 』

その昔、西郷に「小山ギツネ」という狐が住んでいました。力が強く智恵もあり、まじないも使えた為、近隣の狐たちの親分でした。踊り、笛、太鼓も得意で家来狐たちを集めては大騒ぎをしていました。時には、家来狐たちを引き連れ、上井の河原で芝居を行い、人間もおおいに喜ばせました。ある日、小山ギツネは好物の油揚げと引換にお坊さんにまじないを教えてしまいます。しばらく後、近くの村の若者が狐に取り憑かれ、お坊さんがまじないで治療しました。すると、なぜか小山ギツネが死んでしまいました。実は取り憑いていたのは小山ギツネだったのです。その後、小山ギツネは、その死を悲しんだ村人たちに祠で祀られたといわれています。

民話伝承舞台めぐりマップ



① 関金温泉の開湯 ・名称: せきがね湯命館 ・住所: 倉吉市関金町関金宿1139 ・電話: 0858-45-2000(月曜定休)	② えぐ芋伝説 ・名称: えぐ芋親水公園 ・住所: 倉吉関金町関金宿1305	③ 打吹天女 ・名称: 賀茂神社 ・住所: 倉吉市葵町586 ・電話: 0858-22-4479	④ 長谷寺の絵馬 ・名称: 長谷寺 ・住所: 倉吉市仲ノ町2960 ・電話: 0858-22-3272 ※絵馬堂に入る際は要事前連絡。一人500円。	⑤ 大原鍛冶 ・名称: 大原神社 ・住所: 倉吉市大原619
⑥ 小人の大工 ・名称: 大瀧山地蔵院 ・住所: 倉吉市関金町関金宿1218 ・電話: 0858-45-2656	⑦ 矢止め荒神 ・名称: 矢送神社 ・住所: 倉吉市関金町山口447	⑧ 洪水の神 ・名称: 勝宿禰神社 ・住所: 倉吉市下田中町113	⑨ 花かつみ物語 ・名称: 山名寺 ・住所: 倉吉市巖城956	⑩ 小山の芝居狐 ・名称: 天神川の河原 ・住所: 倉吉市上井周辺